

熊本県立玉名工業高等学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
教育綱領「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉 工夫」「健康 安全」のもと、生徒の豊かな感性や思いやりを育み、果敢に挑戦する態度を養い、企業や大学、地域との連携・協働により、地域の課題解決や発展に貢献し、地域社会に活力を与え、産業界の未来を担う人材を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成 (2) 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現 (3) 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成 (4) 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	安心安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の浸透 ・工業教育の推進 ・健全な組織運営と安全管理体制の構築 ①ハラスメント防止 ②違反・事故等の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会等をとおして教育目標の周知に努める。 ・マイスター・ハイスクール、魅力化コンソーシアム等のプロジェクトをとおした工業教育の推進を図る。 ・職員研修の実施による職員の意識向上を図り、未然防止に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体集会等で校長・主事から随時発信し、生徒への方針周知を徹底した(評価97%)。 ・多数のプロジェクトを展開し、地域連携と社会貢献活動を積極的に行った(評価100%)。 ・継続的な校内研修により、不祥事および事故ゼロを達成・継続した。 <p>※評価については、あてはまる+ だいたいあてはまる の合計</p>
		夢を実現する学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が入学して良かったと思える学校づくり(R6:85%→R7の目標88%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおした人づくりと生徒が充実できる学校教育に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の93%、保護者の96%が「本校に入学して良かった」と回答。教育活動全般への高い支持を得た。
	働き方改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組 ・業務の平準化への体制づくり ・教師にとって働きやすい学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種休暇を取得しやすい雰囲気醸成 ・衛生委員会等を活用した職員の業務状況確認の実施 ・業務の効率化、時間外勤務の削減など、働き方改革に取り組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務を前年度比80%改善した。 ・体調不安を抱える職員に対し、管理職や周囲による声掛けを行い周囲からの支援を行った。 ・業務負担の偏り解消に向け、次年度に向けた改善プロセスを継続中である(R7:70%)。

			(R6:71%、R7の目標75%)			
	入学定員の確保	入学希望者の増加	・本校の魅力発信の強化	・体験入学のPR活動 ・Instagram等を利用した情報発信 ・中学校訪問による学校説明会の実施 ・地域貢献活動とおした本校PR活動	B	・体験入学、地域貢献活動、高校説明会、中学校訪問等のPR活動を行った。 ・Instagramによる魅力発信を行った。
学力向上	教科指導の改善	・観点別評価による指導技術の向上 ・専門性の向上	・授業に関する興味関心の向上	・ICTを活用した授業評価の実施 ・さらなる授業改善と評価法の研修	A	・課題等の提出も個人端末を利用するなど、学習環境の充実につながった。 ・アクティブラーニング室の利用方法等の研修が行われた。
	基礎学力向上と積極的な学習への取組	・自学への取組向上 ・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起 ・学習習慣の定着	・ICTや一人一台端末の活用 ・DXハイスクールの推進 ・基礎学力の定着 ・学習への取組向上	・学力テスト等による基礎学力の把握と向上 ・DX化導入と大学との連携開始 ・授業時間数の確保 ・スタディサプリの活用 ・定期考査へ向けた環境づくり	A	・スタディサプリの導入で、個々の学習特性を把握し自主的学習のステップアップにつなげることができた。 ・定期考査期間の部活動休止や玉エタイムなど、学習時間確保を行った。
キャリア教育(進路指導)	就職・進学に対応したキャリア教育の充実(人から人材への高校3年間)	・インターシップの充実	・インターシップを終えての感想で、「充実していた」と答える生徒90%以上	・受入れ企業先の精選 ・事前指導(マナー講座)及び事後指導(振り返りシート・お礼状作成)	B	・受入れ先の企業に工業系の企業や地元の企業を数社追加及び実施することができた。また、chromebookでお礼状の作成も可とした。
		・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上	・「玉工手帳」を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒50%以上	・玉工手帳の活用法や進路情報の提供	C	・本年度は、「玉工手帳を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答えた生徒は48%と目標に届かなかった。
		・生徒一人ひとりの進路実現	・進学希望者及び求職者の最終合格・内定率100%達成	・個別進学指導の計画及び実施 ・生徒及び教職員の企業説明会や進学説明会等への参加 ・全職員による面接指	A	・履歴書のPCでの作成が可能になったことや大学入試の出願方法の多様化など対応に追われる年度だった。そのため、校内の統一した対応のマニュアルが必要となった。 ・生徒及び教職員向けの説明会等を適宜行うことが出来た。 ・全職員による面接

				導の実施 ・進路講話及び進路説明会の実施		指導を実施できた。 ・進路講話及び進路説明会を学年ごとに実施できた。
生徒指導	基本的 生活習慣の確立	・制服の正しい着用と地域に信頼される生徒の育成 ・社会のルールを順守する意識の醸成	・服装や身だしなみの大切さについての理解(服装検査の合格率を各クラス90%以上とする) ・地域に信頼される行動の定着	・服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ・HR指導及び集会等での指導	A	・服装頭髪指導の合格率の平均は、92%となり、昨年度より上昇した。頭髪の基準が変更となっから2年目となり、生徒への理解も深まっているように思われる。 ・頭髪指導において、複数回、指導を受ける生徒が数名おり、事後指導等を行った。
		校門付近でのマナー向上	・校門付近において通行の妨げになっている状況の改善	・下校指導の実施 ・担任指導や全校集会での周知徹底 ・スマートフォンの使用場所の検討	B	・週2回の下校指導を行ったが、指導時間外や下校指導がない日、全校生徒が一斉に下校する日に通行の妨げになっている状況もあった。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナー及び原付バイク運転マナーの向上	・通学路における交通指導 ・自転車乗車中のヘルメット着用の徹底 ・交通事故の前年比30%減 ・交通違反の30%減	・現地での登校指導の充実 ・交通委員による啓発活動及び職員による指導 ・原付通学生の定例会の定着と効果 ・原付免許取得者全員に対しての定例会の実施 ・担任指導や全校集会等による周知徹底	B	・現地での登下校指導を実施することができた。 ・ヘルメット着用の呼びかけを行うことができたが、学校から離れると着用していない生徒も数人見かける。 ・自転車の事故は4件で、昨年度より2件減少した。事故の内容は駐車場から出てくる車との接触事故が多く発生した。 ・原付バイクの交通違反は6件で昨年より8減少した。来年度は更に定例会を充実させ規範意識を高めたい。
人権教育の推進	人権教育の推進	・研修の充実と推進体制の強化 ・指導方法の工夫と改善 ・学習環境の整備 ・充実と指導者の育成	・学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ・人権教育便りの配付(学期に1回) ・校外の各種研修会への参加を推奨(2回以上参加率平均70%) ・学年に応じ、学期1回程度の効果的なL	・人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ・人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ・校外研修における全職員への参加の呼び掛けとレポート研修におけるレクチャーの実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議	A	・校内研修や掲示の取組を通して、教職員および生徒の人権意識を高めることができた。また、委員会で協議した内容を学年会で共有し、学校全体で人権教育を推進する体制を整えることができた。
人権教育の推進						

			H Rの実施			
	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	・全ての教科において人権同和教育の視点で学習指導、生徒指導を展開(就職内定率100%)	・進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にす る学習指導、生徒指導の体制を強化	A	・担任との面談時間を確保するため面談週間を設定した。 ・進路保証はもとより、進路変更を考える生徒に対しても、細やかな配慮と情報提供を行った。
	命を大切にす る心を育む指導	自己肯定感、自己有用感を高める指導の強化	・すべての教科で人権同和教育の視点から命を大切にす る授業の展開	・HR活動や全教科での取組及びLHRにおける授業の実施(2回) ・人権教育推進委員会の実施	A	・HR活動や全教科、LHRでの授業を通して、生徒が人権について考える機会を確保できた。また、人権教育推進委員会の実施により、教職員間の共通理解が進み、学校全体で人権教育を推進する体制を整えることができた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の風土づくり	・全ての教育活動での注意喚起・情報提供 ・共有等の徹底 ・生徒の変化に気づき、変化を見逃さない職員間の協力体制の構築といじめを許さない体制及び環境づくり	・職員のいじめ防止研修を実施し、感性の高揚を促進 ・INI(いじめなくそう委員会)による啓発活動 ・いじめ防止対策委員会の実施(年3回) ・スクールサインの投稿内容に対する組織的で素早い対応	A	・いじめに関する職員研修を実施した。いじめ事案に対して職員間で連携した対応ができた。 ・アンケートによるいじめの実態把握を行い、その結果をもとにいじめ防止対策委員会で検討し、早期に組織的な対応ができた。相談支援部及びSCやSSWとの連携ができた。 ・スクールサインへの書き込みは昨年と比べ減少し、迅速に対応した。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	「地域とともにある学校づくり」の取組	・保護者、地域住民、行政等からの学校への参画並びに支援体制を促進させ、信頼関係の深化 ・地域と連携した教育活動	・学校運営協議会の充実と協力体制の構築 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた保護者や地域住民との情報や課題の共有化 ・令和7年度から始まった魅力化コンソーシアムの推進	A	・学校運営協議会委員との円滑な連絡体制を確立し、円滑な学校運営に向けた会議を2回実施した。 ・HP、Instagram、すぐー等を活用し、本校の教育活動を積極的に発信した。 ・1月19日、「玉名市の活性化及び熊本県立玉名工業高等学校の魅力向上に関する連携協定」を結び、地域社会と協力体制を構築した。
	地域連携	ボランティア活動の推進	・ボランティアへの参加をと おして地域	・ボランティアをと おして学校と地域を繋げる活動の継続的な実施	B	・市町村主催の複数のボランティアに参加した。

			住民との連携 ・地域イベントやボランティア活動の案内と参加	・生徒会、JRC部、有志による地域清掃活動の実施 ・地域交流活動の実施		・玉工杯モルック大会を開催し地域の方々と交流を深めた。 ・JRC部が玉名レオクラブ員として社会貢献活動に取り組んだ。
産業界や地域に貢献する人材の育成	ものづくり教育を通じた人づくり	産業界や地域との連携	・ものづくり教育の充実と職業人としての意識向上	・地域の自治体や工業の関連企業との連携による技術力供与や実技指導等の実施(マイスター・ハイスクール等)	A	・玉名市と連携し、公民館講座や商業施設でのものづくり教室を行った。また、高校まつりに参加し、魅力発信に努めた。マイスター・ハイスクール2年目として充実した各科での取り組みを行い、実習などの組み入れで生徒の知識・技術力の向上に繋がった。
		専門分野への知識や技能の深化	・ジュニアマイスター顕彰制度において連続して学校表彰を受ける ・ジュニアマイスターゴールド・シルバー認定10%増	・ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨 ・3年間の取得計画表の掲示 ・各種資格の周知 ・課外や模試の実施	A	・ジュニアマイスターの前期申請では95名、後期申請では62名を予定している(特別表彰者8名を含む)。全体で約8%増である。技能士受験については昨年度より若干名多い合格者を輩出している。
	魅力発信	魅力発信	・学校の日々の様子を定期的に更新 ・中学生が入学したいと思う学習内容やものづくりの発信 ・地域イベントへの参加を通して小・中学生をターゲットに本校の魅力を発信する。	・ホームページやインスタグラムによる情報発信 ・地域イベント等に参加し、ものづくり教室や体験活動を行うことで、小・中学生に本校の魅力ある学習内容を発信する。また、メディア等を活用したPR活動を行う	A	・ホームページやインスタグラムで情報発信を行い、多くの閲覧を得ている。 ・ものづくりを中心として地域イベント等に多数参加、多くの来場者で盛り上がった。メディアへの取り上げもあり、情報発信も行った。
		魅力ある部活動づくりとその活性化	・部活動の加入率の向上 ・各種大会において上位入賞及び上位レベルの大会への出場	・部活動指針に基づいた長期、中期、短期の目標を設定及び明確化 ・生徒の自主性を伸ばす計画的活動の実施	A	・体育系、文科系共に高い加入率となっている。 ・各部活動が部活動指針に基づき計画的に活動した結果、大会等での上位入賞が増加。活動意欲等や部の活性化等につな
	部活動の振興					

						がった。
		部活動における安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の健康観察の実施及び徹底 ・ 活動場所の安全管理と整理整頓 ・ 活動中のけがの予防及び防止の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動顧問会を定期開催することによる情報共有及び安全管理 ・ 毎月の活動内容の明確化及び休養日の定期的な設置・救急処置講習会の実施等、生徒の安全意識向上の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に顧問会の開催を行い、安全面や安全管理（計画等）等に対する呼びかけはできたが、生徒についての情報共有等には至らなかった。 ・ 救命講習会を開催することができなかった。
	安心安全な学校づくり	安心安全な学校づくりのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全点検実施100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回の安全点検 ・ 安全点検結果を事務室と共有する。 ・ 事務室との連携による早期整備・修繕等の実現 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回の安全点検を実施した。結果を事務室と共有し、整備や修繕等を可能な限り実施することができた。
保健管理	心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策の実施と健康観察の徹底 ・ 保健だよりによる健康情報の提供 ・ 部活動生への救急処置講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な感染症拡大防止対策の継続 ・ 健康に関する生徒情報の共有 ・ 保健だよりの学期ごとの発行 ・ 体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間で健康に関する生徒情報の共有ができた。 ・ 保健だよりによる健康情報の共有ができた。また学期ごとの発行をすることができた ・ 体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施することができた。
		特別支援教育を含めた相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を持つ生徒、支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 ・ 特別支援教育に関する職員の共通理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回の職員研修を実施する。 ・ 生徒状況把握のための各種調査の実施 ・ 個別の教育支援計画に基づく情報共有と支援の実施 ・ SC・SSWや関係機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「職員の気づきアンケート」を実施し、職員研修で生徒の学校生活での状況について、職員全体での共有を図ることができた。 ・ 支援を必要とする生徒のため、児相やSSW等の外部機関と連携をとって、担任と生徒保護者のためにサポート体制の構築を進めた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 ・ 命あるすべてのものを大切にすることの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いのちを大切にすることの教育の実施 ・ ストレス対処教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年対象の講演会の実施 ・ 自らSOSを出す方法と傾聴方法の授業を実施 ・ 相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会を学年ごとに実施し、命の大切さについて考えることができた。 ・ 1年生のLHRを活用し、SOSの出し方についての授業を実施し、ストレスに対処する力の構築に努めた。 ・ SOSを発信しやすい関係性の構築、ストレスマネジメント、傾聴スキルなど

						に関する授業を実施した。 ・SC面談等についても希望者を募り、面談結果等の情報共有に努めた。
--	--	--	--	--	--	---

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も玉名工業高校の実績として、部活動、資格取得、各種工業系の大会での入賞等目覚ましいものが有り、魅力ある学校づくりとなっている。 ・生徒の自己実現のためのキャリア教育、交通マナー教育、命を大切に教育等、学校の先生方をはじめ生徒、保護者一体となって取り組まれ、大きな成果につながっていると考えられる。 ・家庭学習の習慣化の取り組みは保護者の協力なしには実現できない目標でもあり、目に見えた成果につながらないのであろう。玉名工業高校の生徒の学校生活を振り返ってみると、週に一回の実習レポートの作成も大変な学習量であろう。さらに、多くの生徒が資格取得を目指して、課外や家庭での学習に取り組んでいるのである。また、技術力を身に付けるための練習はさらに多くの時間を要し、加えて部活動にも参加している生徒も多く、自由な時間があるのだろうか心配すらしてしまう。これらのことも理解し考慮した上で、家庭学習の習慣化についての取り組みを考えなければならないと思う。 ・玉工手帳の活用のための指導については、その重要性の理解について、まだまだ教職員間で開きがあるようにも思われる。自分の在り方の振り返りは、自分の短所や課題を知るだけでなく、自身の良さや強みを知ることにもつながる重要な教育内容であろう。是非、今後も玉工手帳の活用の指導を教職員や保護者の理解を深める取り組みも合わせながら、さらに進めていってほしい。 ・今年度は入学希望者が減少したようであるが、授業料無償化の流れもあり、私学への流出が加速する中、中学生やその保護者が何を求めているのか、本音の部分の調査が必要であろう。生徒の自己実現を目指した玉名工業高校の教育実践は、ハード面もソフト面も私学のそれをしのいでいると思われる。今後も自信を持って進めていただきたいと思う。 ・学校の取組や様子、子供達のこととよくわかった。また、応援して下さる方々の存在の大きさも感じた。相談窓口や体制についても総合資料にたくさん載せてあった。必要な方に情報が届くようにPTAにもご相談あった時には情報提供できるようにと思った。 ・生徒・保護者・職員、三位一体となって短い3年間をつなげていかれたらなお一層充実し向上していくものと考ええる。 ・地域に住む者として親身になって応援していきたい。 ・「本校に入学して良かった」と回答している生徒が93%というのはすばらしいことだと思った。先生が生徒たちに寄り添い、教育活動が行われている証だと感じた。 ・今後も中高で連携していければと思っている。
--

<p>5 総合評価</p> <p>(1) 全体において 学校評価（アンケート調査の総合評価）の結果について、昨年度と比較すると次のとおりである。 ※数値は「あてはまる+だいたいあてはまる」の割合（%） ・生徒：R6：88.0% → R7：90.3%（2.3%向上） ・保護者：R6：87.3% → R7：88.4%（1.1%向上） ・職員：R6：87.6% → R7：89.1%（1.5%向上） 関係者によるアンケートでは、いずれも昨年度より向上している。 特に生徒による「本校に入学して良かった」については、 R6：85.0% → R7：93.0%（8.0%向上）となっており、本校での学校生活に対する満足度の高さがうかがえる結果となった。</p> <p>(2) 本年度の重点目標 ア 社会に適用する人間力(生きる力、考える力等)を持った人材の育成 マイスター・ハイスクール、KSH、One Team、玉名市高校魅力化コンソーシアム等、地域と連携した多くの事業を通して、地域との連携がさらに深まり、生徒の知識・技能の向上、さらに主体性の育成につながった。 イ 確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現 資格取得については、ジュニアマイスター顕彰制度において例年全国上位入賞校に入っており、生徒の資格取得意欲が高いことがうかがえる。 転学・退学した生徒数は、過去7年間の統計と比較しても少ない状況であった。 また、3年生については進路決定率100%を達成し、今年度は例年と比較して進学者の割合が多いことが特徴であった。</p>
--

ウ 部活動・生徒会活動の活性化、心身の健全育成

部活動においては、レスリング部及びソフトテニス部がインターハイに出場するなど、各部活動において活発な取組が見られ、生徒の心身の健全な育成につながった。

エ 学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

小学校へのものづくり教室の実施や地域イベントへの参加など、地域と連携した取組を推進し、地域に開かれた学校づくりに努めた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・本校では、生徒に原付バイクの取得を認めており、バイク通学生は149名(23.7%)と多くの生徒がバイクで通学している。そのため、交通違反等に関する特別指導も見られることから、今後も交通安全意識の向上と安全な乗車について継続的な指導を行っていく必要がある。
- ・後期選抜入試においては、例年定員を満たしていない状況が続いている。少子化が進む中、本校の特色や魅力を発信しながら、志願者数の確保に向けた取組を進めていくことが課題である。
- ・いじめの認知件数は0件であり、いじめ等を理由とした不登校は見られなかった。一方で、交友関係に悩みを抱える生徒も見られることから、スクールカウンセラー（SC）等の関係機関と連携しながら、今後も継続的な支援を行っていく必要がある。
- ・図書の貸出数は1人当たり2.0冊と少ない状況である。読書週間の設定など、読書活動の充実を図る取組を推進していく必要がある。